熊本大学教育学部紀要，人文科学
第40号，51－58，1991

イタリア古典歌曲の唱法

田　中　千　義

A Singing Method of Classical Italian Song

Chiyoshi TANAKA

はじめに

イタリア古典歌曲とは，1600年ごろから1750年ごろまでに作曲されたオペラ，マドリガーレ，カンタータの中の芸術性豊かなアリアである．17世紀初め楽譜の出版が盛んになり，これらの珠玉のような歌曲が広く世に知られるようになった．中でも1614年に出版されたパリゾッティの編集したものは有名である．現在使用される曲集はこれを元にしていて，本著の歌曲もこの中にある．

これらの歌曲は，その精神においてバロックの精神よりは，むしろルネッサンスの精神を重視して，人間の純粋な心の表現を音楽と言葉で歌い上げねばならない．

学習者は，訓練の過程において，姿勢，呼吸，横隔膜，大臀筋，咽喉の開き，口形，舌の運動など，困難な作業があるが，全てに注意を怠らないで，Bel Canto の唱法を学びつつ歌っていかねばならない．また，イタリア語の持つ美しい響きの発音自体を，レコード，CD, LD, 映画などあらゆる機会に学んでいきたい．

カッチーニの音楽

多くの作曲家の中で古い方にはいる，Giulio・Caccini（1550～1618）は，ローマの出身でジュリオ・ロマーノの別名を持つ．1564年以降フィレンツェの宮廷にリュートやヴィオール，ハープ奏者，歌手，作曲家として務めまた，当時数多くの文化運動グループ《アカデミ》の中のひとつカメラータ・フィオレンティナの一員として，新音楽の創造に力を注いだ．これらの人達は，ギリシャ悲劇を自分達の芸術として再生しようとし，ギリシャ悲劇では台詞は歌われていたと考え，歌は何よりも独唱歌でなければならない，また朗誦的なものが理想と考えた．カッチーニの歌曲も当然朗誦風の中に旋律の優雅さが見られる．彼は1602年と1614年に Le Nuove Musiche（新音楽）という表題の歌曲集を出版している．本著の曲もこの中にある．当時，Monodia accompagnata 伴奏付き独唱歌は，大へん自由に演奏されていたが，カッチーニは前述の新音楽の序文で当時の音楽のあり方を次のように批判している．《装飾的楽句は良い歌い方に必要でないどころか，それは情熱を込めて歌うということが，どんなものであるかを知らない人達の耳のくすぐりのようなものであると私は思う．世に在るもので経過句ほど情感に反するものはない，私は装飾楽句はあまり表情的でない曲，しかも長い音符と最後の終止のところにしか用いなかった.》と述べている．また《当時のマドリガーレのような音楽は，言葉が聴きとれないために知性を感動させることが出来ないので，こ

れらの音楽や音楽家達は，音楽が聴覚だけに与えうる喜びしか与えなかったという事がわかった．そこで私は人があたかも音で語ることが出来るような音楽を導入しようという考えを持った．》とも述べている．

彼の理念に添って曲を歌をつくっていかねばならない．

以下は，彼の歌曲 Amarilli mia bella の唱法を記述したものである．

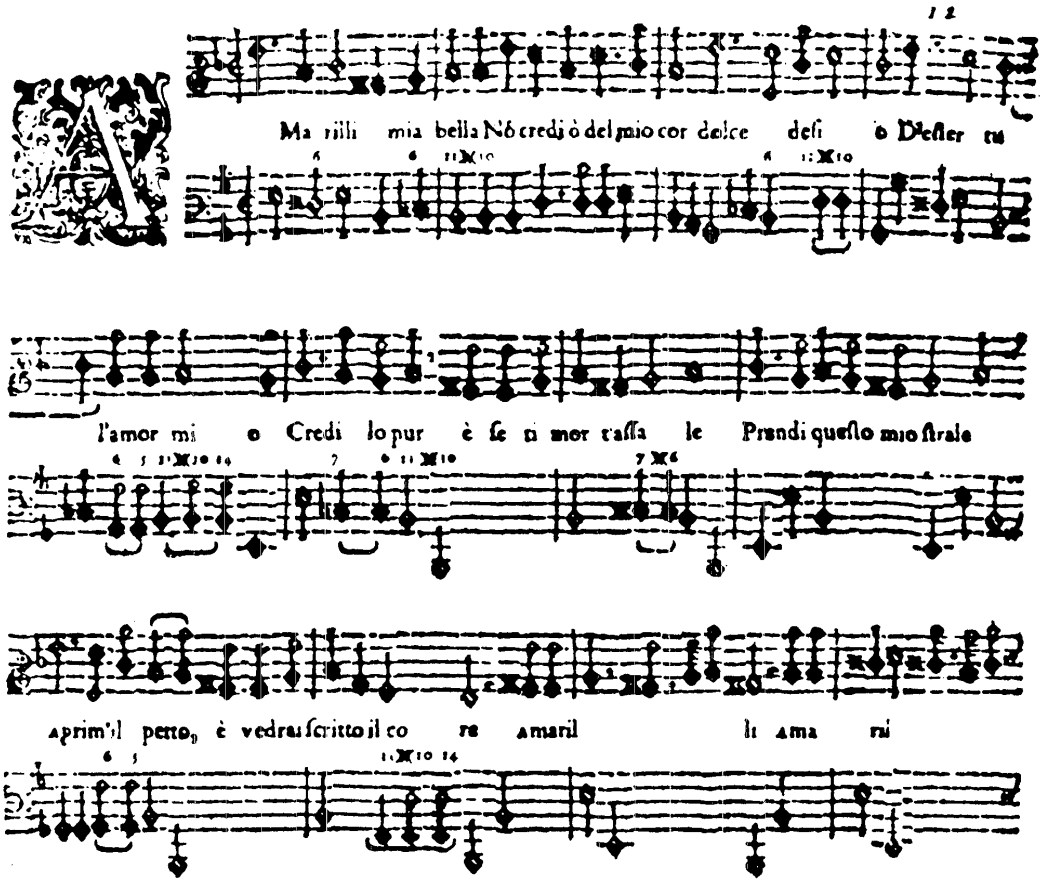
発想標語は Affettuoso 情愛深くである．この甘美なしっとりとした歌の流れを，心の底からあふれ出る情愛をにじみ出る泉のように表現したい．あくまでも透明な声を目指す．まず歌い出す前にゆっくり呼吸し息をととのえる．

Amarilli のAは，声のポイントを change した，上の方の響きで静かにアタックして声を発する．胸の鼓動が声に影響しないようにヴィヴラート声の震えがないように横隔膜を静かにじわりと支えておく．

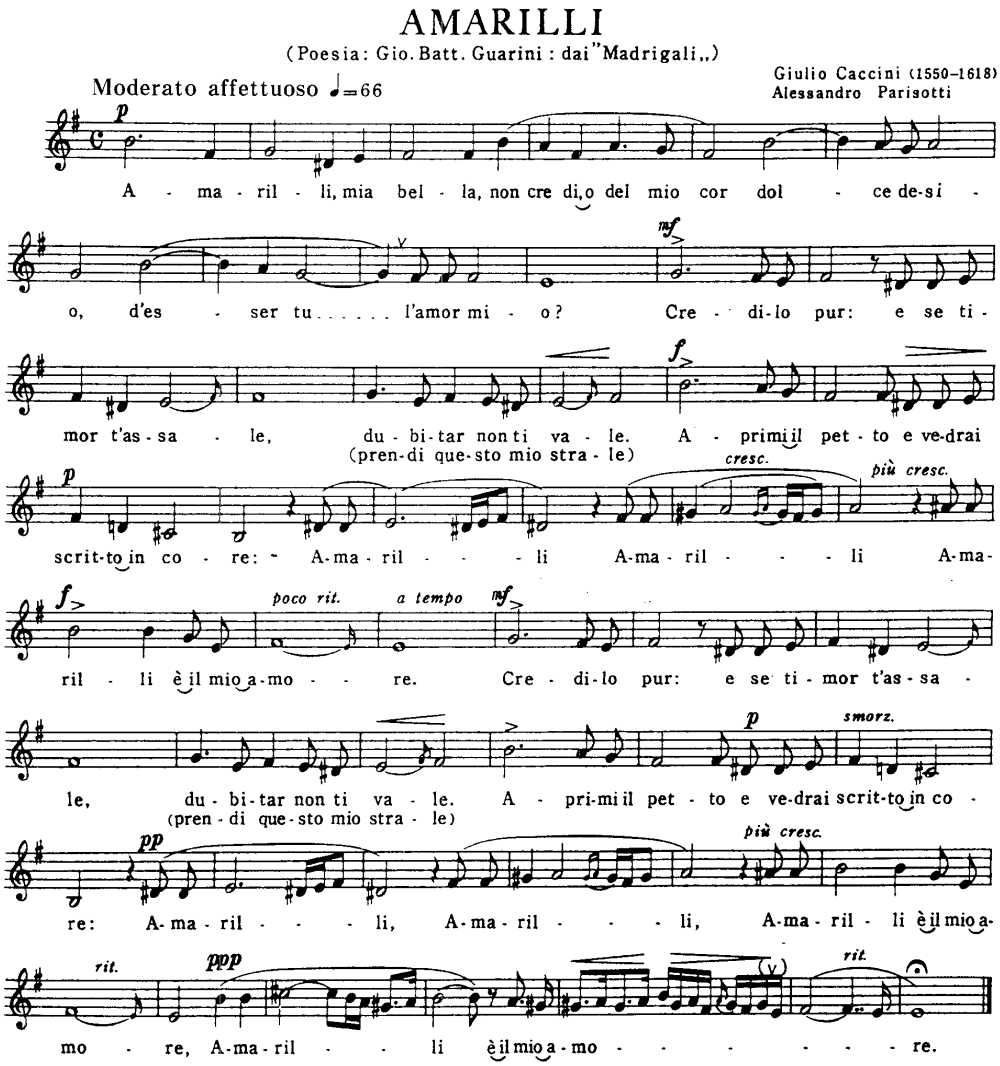
Bel Canto 唱法の真の継承者といわれるカルロ・ベルゴンツィ氏は，徹底した横隔膜の支えによる腹式呼吸，また，ヴェルディ音楽院の名誉教授マリオ・メラーニ氏は声はのどからではなく呼吸＋ Appoggio （支え）から生まれる，といづれも支えを力説している．

支えを意識しながら情愛こめたAの声色を目指す．明る過ぎるのも良くないが決してAが暗い声色になってはいけない．次の ma に下降する際は注意深く ma の発音即ち口の動きと声帯の変化を一致させねばならない．

譜例Ⅰ 原 譜



譜例Ⅱ　現在の楽譜



訳

美しい私のアマリリ

私の心の優しい希望の人よ，

あなたが私の愛であることをあなたは信じないのか．

どうぞ信じておくれ

そしてもし不安があなたを襲っても疑いは要らない．

私の胸を開けよ，すると心の中に書かれたものをみるだろう．

アマリリは私の愛であると．

（田中訳）

Amarilli, mia bella,
アマリリ　私の美しい人
non credi,o del mio cor dolce desio,
信じないのか　おお　私の　心　優しい希望
d'esser tu l'amor mio?
である　あなた　私の愛
Credilo pur:
信じよ　それをどうぞ
e se timor t'assale, dubitar non ti vale.
そして　もし　不安　あなたを襲う　疑い　あなたには不要.
Aprimi il petto e vedrai scritto in core:
開けよ　胸　そして　見るだろう　書かれた　心の中に
Amarilli èil mio amore.
アマリリ　である　私の　愛

よく見られる悪い例は，Aの次にnが入ってしまうAnmarilliである．llはイタリア語においては英語の歯茎音と異なり，上門歯の内側に軽く舌の先端を当てて，舌の先のみで発する歯音であるか

ら，口の前方で音を発することになり，歯茎音よりも更に冴えて鋭い音にせねばならない．また，顎と舌の緊張を完全に取って舌の先端だけを素早く使う．ll は l と同じ歯音で発音の仕方は同じであるが，前の母音を少し短くせねばならない．即ち長い l と考えるのみでなく，l で終わる音節 mal と l で始まる li と考え，しかも二重の ll は途切れなく発音せねばならない．舌の先端を必要な時間の長さだけ上歯の内側の面に当てていればよい．2小節目の mia は二重母音である．日本語のミヤにならないように良く注意してかからねばならない．口または口の中が良く開かないままaを発音してしまいがちで，ミヤになってしまうのである．不精しないでaをよく開ける．次の bella は〔bεlla〕で開いた明るい be で歌う．be から lla に移る時 beulla にならないように，また，bela にならないように be から lla に移る発音練習を何回もくり返し，その上で更に歌い方の練習をする．次の non は no の発音の時よく鼻に声を通しておく．日本語のノンしかもンの早過ぎる発音はよろしくない．ハミングの練習をして鼻腔の響きをよくとらえ，non を響きのよい音にしたい．4小節目の Credi の Cre は発音だけの練習で，C と re が素早く連なるように，間にあいまいな母音がはさまらないように，また，日本語のクレにならないようにして後歌う．次の del は de をよく延長して，次の mio を lmio と考えて発音するとうまくいく．mio はしばしばミヨに聞こえる．これは2小節目の mia と同様口を不精して開けないために起こるのである．半拍の時間で素早く口を動かして発音する．次の còr 〔Kɔr〕 は言葉としては còreである．troncamento （母音消滅）で母音＋l，m，n，r は最後の母音が消えるのである．còre は còr, essere は esser, amore は amor, pure は pur, timore は timor となる．また，末尾の r は顫動音で完全な有声音で終わる．4分の1拍ぐらいの r の震えが適当と思う．あまり長い時間をとることはさけたい．この顫動音は会話においては必ずしもそうではない．

イタリア語には2種類の r があり弾音 ɾ と顫動音 r と区別される．弾音の方がはじく ɾ で舌の先端は一度だけ上歯の根元に触れる．顫動音の方は連続して速く何度もはじく．この舌のふるえは吐く息によって成りたつ．自由な舌の先端が震動して上歯の根元に対して息の流れが震動して発音される．後に子音の続く r と語尾の r は，この震える顫動音である．r をはじくように発音練習するには，まず顎や舌は楽にしておかねばならない．舌の先端は上がり上門歯の根元あるいは少し上を軽く震動して，はじく．はじめは2度3度はじくだけで充分である．それを続けてより長い巻きの r にしていく．破裂音を前につけて練習する方法もある．Pra, bra, tra, dra などである．

dolce の歌い方は〔dolutʃe〕になりがちである．do をよく延長して ltʃe というつもりで歌う．次の d'esser 〔dεsser〕は elisione （母音省略）で di esser が d'esser になったものである．他にも Lo amore が l'amor 〔lamo:r〕, ti assale が t'assale 〔tassa:le〕 となっている．ss の部分の飛び方は注意を要する．d'e の部分が3拍あるが de を2拍半とみて，次の半拍を子音のみの s とし4拍目の ser に入ると考える．desèrere （断念する）という語に聞き違えられそうになってはいけない．次の tu はuを口の突き出した形で発音する．口形を横にしたuは，それ自体イタリア語ではない．次の l'amor は mor が moru にならないように mo と r の時間の配分を mo 4分の3拍，r を4分の1拍に近いと考える．r の顫動音が短時間でよくふるえるように練習する．mio は mi からoに1音下がる時，ごくなめらかにスラーで歌わねばならない．mi oh! と聞こえたら「私におお！」という異った意味になる．7小節目2拍目から10小節目まで約11秒かかるが，出来るだけ9小節目のブレスを使わない方が，文の構成上望ましい．ブレスを充分に取らないと息切れを起こす．または，息をしぼり出そうとして，声がふるえてしまうのでよく練習する．横隔膜の支えを確実に、両手を横腹に置いて，横隔膜の動きを感知しながらの練習が効果的である．12小節目の pur は，次の8分休符にかからぬようにrを延ばさなければならない．r のタイミングよい切り上げを

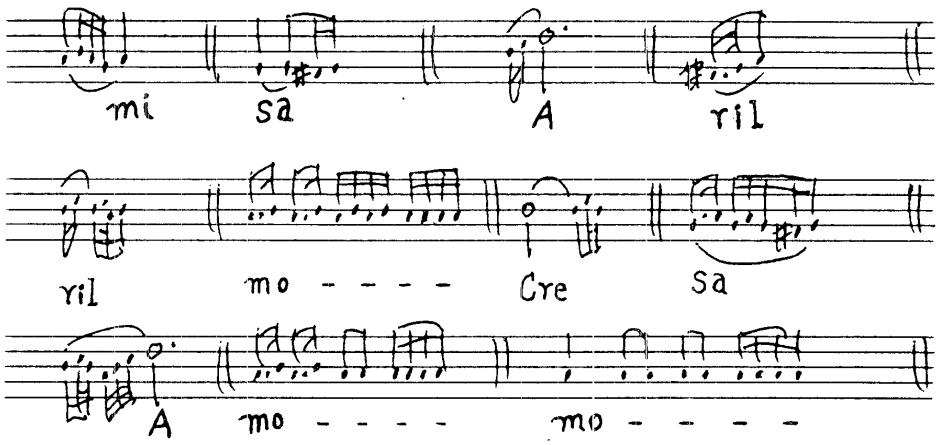
注意する．次のeは接続詞で，発音はεではないeであるが，声の響きを大事に取って，εと同じぐらいに歌ってもかまわないと思う．同じような例にoとɔがあるが，会話では区別するが，歌唱ではɔを使って声の響きの方を大事にしてもよいと思う．カッチーニの言に少し反するが．13小節目の3，4拍目は，終りに小さい4分音符か小さい8分音符に異った楽譜があり，本書は4分音符と付点8分音符，そして16分音符と考えて音をとる．16分音符は音程をはっきりと，しかもなめらかに上昇させねばならない．15小節目の non は最後のnを，鼻によく通して発音しないと，non ti が noti に聞こえてしまいがちである．non と ti を続けての発音訓練をしながら歌唱練習をつむ．16小節目は vale と歌いながら徐々にクレッシェンドしていくのであるが，決して息切れしないように訓練する．このdubitar non ti vale は，本来は prendi questo mio stale（この私の矢を取りなさい）である．詩の続き方は後者が良いが現在は前記のようにしか歌われなくなった．次のAprimi はフォルテであるが，決して乱暴なフォルテであってはならない．私の胸を開いて，と切々と訴えている訳であるから，くれぐれも荒い声にならないように，節度のあるフォルテで歌う．mi il は mil と思って歌う．18小節から19小節にかけての e vedrai scritto in は，この曲の中で最も発音し難い部分である．vedrai が vedorai にならないように，また，scri は sukuri にならないように素早く発音し，iの母音を少し伸ばしてから少し飛んで to を発音する．tt の息のつまった飛び方に注意する．to in は1拍の中で歌わねばならないが，scritto（書かれている）という言葉と，in（中に）と，core（心）という言葉の中で，in はそれ程重要ではない．従って to を少し長めに発音する．ただし in は，はっきりと発音して歌う．còre〔kɔ:ʃe〕のʃは弾音のʃであり，はじくように素早く発音する．もし顫動音rにすると corre (cogliere 詩に用いられる）集める，摘む，という意味になる．歌詞を知っている者には，舌の廻転の遊び，あるいは舌の訓練として聞き流せるが．20小節目4拍目からは，Amarilli と直接呼びかける訳だから，ピアニッシモでしみじみとまず歌い，2度目の Amarilli でやや声を出し，3度目は声量を増し心情を吐き出し訴えたい．23小節目の装飾音は，声のコントロールを練習によって得ておかねばならない．コンコーネ50番練習曲の№44など適当な教材である．èil は1があくまでも短く発音されねばならない．次の mio a は1拍の中で歌い終って次の mo の音に移らねばならない．また poco rit は伴奏の方で特に4拍目の音の運びを，慎重にコントロールする．伴奏の4拍目後半の8分音符の音を聞いてのち，なめらかに1度下の16分音符に移り，次の re は伴奏の a tempo を聞きながら4拍歌う．声量も mo から re に向って楽譜の指示に従って，徐々に落としていく．この16分音符も楽譜によって8分音符になっている．28～44小節2拍目までは，同じくり返しなので省く．44小節3拍目から，この曲最大の聞かせどころクライマックスである．この曲中一番高い音が出て来る．従って，ここまでにスタミナを温存させねばならない．テノールは，特に声の破綻に気を付けなければならない．女声と違い大部分の男声は高音に向う時，二点ホヘ音で声がひっくり返るおそれがある．あるいは咽喉のしめつけになってしまう．声楽の勉強を始めてかなりたっても，注意して慎重に声のコントロールをせねばならない．初心者にあっては，咽喉のしめつけにより，咽喉の上昇を招くおそれがある．44小節歌ってきた声帯の疲れを，訓練によって，少しでも少なくなるように，発声練習で声帯を正しく強く鍛えておかねばならない．声帯の上昇は，男性の場合容易に外から自分で鏡に写し観察できるし，また，手で声帯部位を軽く触れるだけでわかるので，上昇を避ける訓練をしておく．一般的にいわれるのは，横隔膜に力を入れることにより，咽喉にかかりそうになる力を減じる，という暗示的ともいえるが実は真実な表現そして方法である．胸膈の自然な力を込めての吸気の保持は，背骨の真直な姿勢と共に更に意識されねばならない．change された声は，やや鼻腔方向に意識して出す．Ama は母音がaで，咽喉を開いた形そのもので出し易い．しかし一音上昇した rilli は母音がi

で更に出しにくい．ｉの母音を鼻腔に向って，更に少し声のポイントを上げ，しかもよく鼻腔に響くように歌う．鼻に手を軽く当てて，その成果を確かめながら歌う．46小節 èil は l の発音が，前の母音の短縮を最少限に押えるように，舌の動きを素早くおこなわねばならない．次の mio a は，素早い口の運動をした後，歌ってみると効果的である．47小節は咽喉のコントロールで，付点８分音符と16分音符の動きを鮮やかに達成したい．コンコーネ50番練習曲の№37などで練習しておく．咽喉をつめた声の動きにならないように，あくまでも腰にポイントを置いた姿勢で，身体全体からこのリズムが発せられるようにすべきで，咽喉のみの軽い動きとかるがるしく考えるべきでない．47小節の終り近くにブレス記号があるが，これを省いたものが元の楽譜である．初心者には必らず指示したいブレス記号である．このフレーズを征服するには，出てくる母音のｏ，ｅ，ａのみで，子音を省いて練習しておくとよい．その訓練の成果をみながら，ひと息で歌えるように練習をつむ．48小節目の最後の16分音符は，その前からすでに rit がかかっているので，８分音符ぐらいゆっくりと時間をとり，最後の音にやわらかに dim. しつつ導かれるように歌う．約14秒かかるが，苦しいからといって rit. をないがしろにしてはいけない．

以上，発音，発音訓練法，発声法，イタリア語解説を含め唱法を述べた．

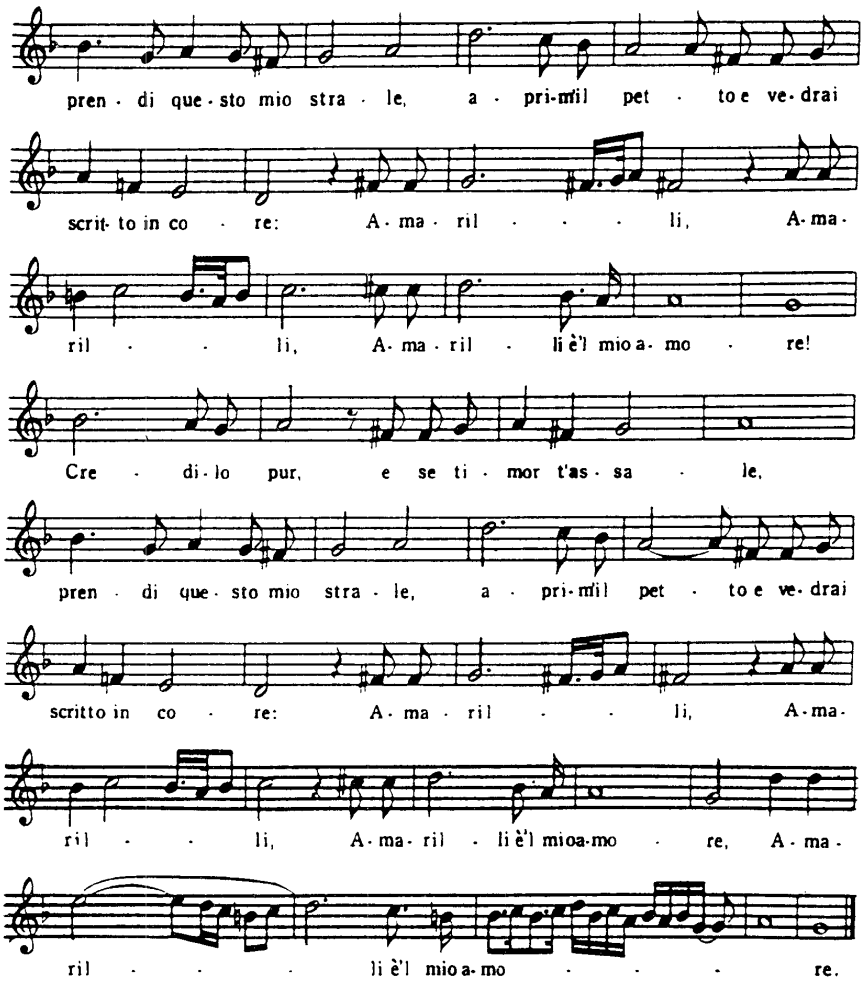
アルヒーフ・レコードに，テノール歌手ナイジェル・ロジャーズは，節度のある即興的な装飾音を用いて歌っている．これは，カッチーニも許すであろうと思われる演奏である．柔軟な声が使えるようになったら，この唱法を使い，歌唱を更に面白い味わい深いものにしたい．次にその装飾音の部分を採譜したものを掲載しておく．

譜例Ⅲ　g moll



コペンハーゲンの音楽学者クヌト・イエッペセンの編曲による楽譜《La Flora》は，より原典に近いといわれる．次に音の変わる15小節目からの楽譜を掲載しておく．

譜例Ⅳ



おわりに

歌曲の理解を深め，歌唱力をのばし，珠玉のようなイタリア歌曲の芸術性を高めたい．

参 考 文 献

1) Collins sansoni Italian Dictionary Collins 社，1987
2) Dizionario Italiano Garzanti 社，1990
3) Dizionario Italiano, 小学館，1983
4) Nuovo Dizionario Giapponese Italiano, 野上素一，白水社，1969
5) Il Nuovo Dizionario Inglese Garzanti 社，1990
6) Arie Antiche Italiane, 1. 原田茂生編著，教育芸術社，1989
7) イタリアオペラ歌曲徹底解剖専門誌，アウラ・マーニャ，イタリアオペラ出版，1986
8) 声楽家のためのイタリア語，エヴェリーナ・コローニ著，石田徹・石田美栄共訳，音楽之友社，1976
9) Antologia dei Canti D'italiani, 畑中良輔著，カワイ楽器，1962
10) 声楽名曲選集，大阪音楽大学編，音楽の友社，1989

11) イタリア古典歌曲集，岡村喬生，(キング・レコード)，1966
12) Canti Amorosi, ナイジェル・ロジャーズ，戸口幸策解説，(アルヒーフ・レコード)，1975

(1991年5月20日受理)